

2013年10月1日付けジャパンタイムズ

### ベナン大使、テレビスターのパワーを外交に発揮する

「私の夢は、日本の次期首相になることです」と、ベナン大使ゾマホン・ルフイン氏は、半分冗談めかして言う。

「私の母国はさておき、日本は私が最も愛する国。私は日本人になりたいくらい」、49歳の特使は、人懐っこい笑顔で顔を輝かせながら続けた。

2011年より西アフリカの国の大使を務めているルフインにはユニークなバックグラウンドがある。彼は、十年程前、日本のバラエティ番組で人気を博したテレビタレントだったのだ。

コメディアンから映画監督に転向した北野武氏が進行役を務めるテレビ番組「ココが変だよ日本人」の出演者の中でも彼は一際目立つ存在だった。

ルフインは、ベナン大使館でのインタビューで次のようにも語った。

"私は、ビートたけしさんにはとても恩義を感じております。日本で有名になったのも彼のおかげです"と。

彼は、TBS プロデューサーにスカウトされた日のこともよく思い出そうだ。それは、彼が深夜、東京のラーメン屋でラーメンを食べていた時だった。

"一回の出演で12000円という、夢のような出演料を提示されたので、私は即座に答えました。「素晴らしいですね！私はそれを受けます、受けます！」ってね。当時、私は時給450円で働いていましたので、まるで神の祝福のように感じました。"

それは、日本在住の外国人が日本社会のおかしな点について彼らの不満を述べるという趣旨の番組で、ルフインはその約100人の外国人のうちの一人名として出演し、2002年に番組終了を迎えるまで、その大きな声とユニークなジェスチャーで、番組中最も人気のあるキャラクターの一人になっていた。

ルフインはその後もコメディアンタモリが司会を務める人気ロングランバラエティ番組「笑っていいとも」を含む、他の番組にも出演するようになる。

2007年には、宮崎県知事に選出され「そのまんま東」の名で知られる人気テレビ芸人、東国原秀夫の二代目として、「二代目そのまんま東」の芸名をビートたけしより襲名する。

彼はテレビ出演に加えて、1999年に"ゾマホンの本"、2000年にその続編"ゾマホン大いに泣く"という題名の本を日本語で出版する。最初の本は、ベストセラーとなり、販売冊数27万部を記録した。

彼は、過去10年間に渡り、その本の印税を、ベナンの4つの学校の建築費に充てている。

ルフィンがこのたび日本特使の任命を受けた時、彼の母国や海外の幾つかのメディアに彼は「和製大使」と呼ばれ、外交経験のまったく無い彼にその地位が与えられたのは、単に彼が日本に持つたくさんのお蔭、と叩かれたそうだが、彼は、そう言われることを少しも気にしていないと言う。

ルフィンの両親は、ダホメイ（1975年までベナンの国名はダホメイと呼ばれていた）のダッサズーメと言う地方都市の公務員と農業従事者であった。彼は、父親を早い時期に亡くしたため、ベナン国立大学を卒業するまでずっと経済的に苦しい学生生活を送った。しかし彼はその後、北京言語文化大学で教育イデオロギーの修士号を取得するため四年間の政府奨学金を獲得する。

多くの日本人学生もその大学で勉強しており、彼が東京行きを決めたとき、一人の日本人の友人の父親が親切にも日本での彼の保証人を引き受けてくれることになる。

ルフィンは、1994年来日、東京江戸川区にある語学学校で日本語を勉強する。2年間日本語を学んだ後、上智大学に入学し、社会学を専攻し博士課程に進む。

学費と生活費を賄うために、彼はアルバイトの仕事を三つ掛け持ちして働いた。しかし、働いていた工場でルフィンは左手人差し指の一部を切断、失うという事故に遭う。

"私は当時、あまり寝ていなかったもので、いつも疲れていました。それでも私は学べるのが嬉しかった。勉強は私にとっては常に喜びでした"。と、当時を振り返っている。

上智大学在学中、ルフィンは、ベナン、中国、日本の初等教育を比較した論文を書いた。しかし、ベナンに学校を建設するという何年にもわたる彼の大事業に中断され、まだ博士号取得には至っていない。現在は発展途上国における労働関連問題について別の論文を執筆中だ。

"ベナンの教育は、日本や中国のとはほど遠く、大幅な遅れをとっています"と、彼は言う。  
"ベナンは、1894年から1960年までフランス統治下にあり、現在も公用語としてフラン

ス語を使用しています。しかし、ベナン人の 70%以上は、フランス語の読み書きができないのです。それは子どもたちの多くが、小学校を卒業することができないからです。”

日本での生活や勉学を通じて得た経験から、ルフィン、日本の教育の質の高さこそが、日本を世界トップクラスの経済大国にまで発展させた主な理由であると確信している。

ベナンで学校を建設するにあたり、ルフィンは学校の数がもっとも少ない地域を選んでいく。そしてそれぞれの学校には江戸小学校、明治小学校、たけし小学校というように日本名が付けられている。この三つ目の名称はもちろん北野武の名にちなんで名付けられた。彼はさらに、そこに日本語学校も建設した。

2002 年、ベナン政府は、ベナンと日本の絆を強固にした彼の功績を讃えて、彼にベナン国民栄誉賞を授与している。彼はまた、2004 年および 2006 年と 2 回にわたり、ボニ・ヤイベナン大統領のアジア問題特別顧問を務めている。

2011 年 12 月、現在の外交ポストに就任して以降、ルフィンは彼の新妻と共に大使公邸に住んでいる。しかし、彼は未だに 20 年間住んでいた中野区のアパートの家賃を支払い続けていると言う。

彼は、未だに彼の古い自転車に乗り、銭湯にも通っている。"私は、そのアパートに置いている私の持ち物が無いと、心穏やかな気がしないのです。また私は、銭湯の雰囲気が好き、そこに人と人との絆を感じることができます"と、語る。

銭湯通いは、風呂もシャワーも付いていないアパート暮らしで身に付けた習慣だそうだ。又、“私は毎日味噌ラーメンを食べていないと、元気が出ません”、とも付け加えた。

"私は、家が貧しいただの「普通の人」です。私は、日本ではお金を稼ぐために努力し、私よりも貧しい人々のためにそのお金を使いたいのです。私は、そういう恵まれない人達に教育を受けさせたいのです。"と、彼は力説する。

ルフィンは、今までもずっと、何年にも亘り、彼の母国に文房具や医療機器を送っている。

"私は、ベナンと日本両国のために生きていきたいと思います。私は、私の国を愛していますし、日本も愛しています。日本抜きで世界が素晴らしいことは在り得ない。"と彼は言う。"日本には知恵というものがあります。いかなる戦争もしない、と言う知恵です。日本の文化は調和と人間性を重視するものです。日本人は自分より先に他者のことを考えることが出来る信頼に値する国民だと思います。"と、最後に締めくくった。